

「幼児の教育」復刻第二期が刊行されることとなった。大正末年から昭和初年にかけての幼稚園における新教育の活発な動きを、新たに手にとって見ることで、驚くべきのは大きなよこびである。「驚く心」や「飛びついて来た子ども」「よこびの人」など、毎月の巻頭を飾る倉橋惣三の短文、また、粘土製作、手技材料、観察、夏期講習会所感、質疑応答など、子どもの心の本質を見出そうとし、それにもとづいた保育の実際をつくり出そうとする、幼稚園がまだ少なかった時代の純粹で素朴な努力にふれると、保育のスピリットを湧き立たせられる思いがする。

この復刻第二期の時代から、すでに四十年を経ている。この四十年間は、幼児教育界にとっても激動の時代であった。昭和初年の新教育の直後には、第二次世界大戦と、それにつづく終戦後の混乱期があり、新教育運動によって提出された

幼児教育の本質への問いは、幼児教育を存続させる精一杯の努力のかけにかくれてしまったかのように見える。そして、日本の社会が復興しはじめや、直ちに高度成長の時代を迎え、幼稚園も、数の上で極度に急激に増加し、一般家庭への普及に伴って、社会への直接の要望に匹する以外のことに目を向ける余裕がなく、ひとたび、昭和初期に提出された幼児の教育の本質的課題は、それ以上実践と結びつけて発展することなく現代に至ってしまったのではないかと思う。

もちろん、昭和初期と現代とは、人々の抱えている世界観や人生観は異り、当時の新教育論がそのまま現代に通じることにはならないだろう。現代の方が、世界に対する展望はもっと明るくなく、人間に寄せる期待は楽観的でない。それだからなおさら、幼児期に人間らしい生活を与えようとする幼児教育の本質的課題——宿題——は重要である。(津守 真)

幼児の教育 第七十九巻 第九号

九月号 © 定価二五〇円

昭和五十五年 八月二十五日 印刷
昭和五十五年 九月 一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

118 東京都港区三田四ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発行所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします